
新しい絆づくりに向け、友情と連帯の輪を

～第54回四国老人クラブ大会～

去る8月8日、高知市の三翠園において「第54回四国老人クラブ大会」（主催：よさこいクラブ高知＜高知県老人クラブ連合会＞）が行われ、四国各県から約370名（本県36名）が参加しました。



高知県老連 加藤美代治会長の歓迎の挨拶に続き、老人クラブの発展に功績のあった14名に対する表彰が行われ、本県からは下記3名が表彰を受けられました。

<四国老人クラブ大会長表彰 被表彰者>

○本県関係（写真右から）

小野寺 郊恵（美馬市）

河野 計之（石井町）

坂本 京子（松茂町）



記念講演は、香川県出身で茨城県立健康プラザの管理者である 大田 仁史氏より「住民全体の介護予防」と題して行われ、医療や介護の問題を解決するために、高齢者の健康寿命を延ばすことが大切であり、自身の健康感を自分で「健康である」と感じている人の方が長生きすること、高齢者自らが学び、力をつけることで超高齢社会を乗り切ることができることなどが説明されました。

各県の代表者による事例発表では、本県から勝浦町 宮崎 武博会長が先陣を切って発表、老人クラブの魅力として「集会に出席する会員が多い」「集会の内容が会員に喜んでもらえる」「今日は来てよかったと言ってもらえる」ことをあげ、集会の際に花見や誕生会を一緒にすることで参加者も増えたことなどを紹介されました。

その他、つながり・助け合い・見守りネットワークをめざした地域づくりが大切であるとした愛媛県愛南町の事例や、仲間づくりのための多彩な活動展開を行って

いる香川県琴平町の事例、「健康は食から」をテーマにした料理教室の取り組みを紹介した高知県の事例が発表され、参加者は熱心に聞き入っていました。



最後に高齢者の世紀にふさわしい5項目の活動に取り組むことを宣言した、大会宣言（別紙参照）を満場一致で可決し、全日程を終了しました。

また、次年度は徳島県で開催されることになっており、片山県老連会長から「万全の準備でお迎えしたい」と挨拶されました。

大会宣言

私たち老人クラブは、「健康・友愛・奉仕」のスローガンのもと約半世紀にわたり、会員の健康づくりや生きがいづくりをはじめ友愛訪問などを通じて地域社会の安心と健全な発展のために尽力してまいりました。

しかしながら、会員の高齢化や減少などにより老人クラブを取り巻く環境もだんだんと厳しくなっているのに加えて、四国の多くを占める中山間地域では高齢者の活動がなければ地域が成り立たないなどの状況も見られています。

こうした中、私たち老人クラブがこれからも地域に頼られ地域とともに活動していくためには、若い人にも魅力あるクラブづくりや会員と地域のニーズに応えることのできるクラブづくりを今後とも着実に進めていくことが求められています。

昨年の東日本大震災は私たちに地域と人の絆の大事さやお互いが支え合うことの大事さを改めて教えてくれました。私たち老人クラブが50余年にわたって引き継いできた「絆と支え合い」の歴史を今一度思い起こし、活動の原点に返ってこれからの老人クラブづくりにともに頑張りようではありませんか。

今ここに四国4県の老人クラブ会員は、新しい絆づくりに向かって友情と連携の輪を広げながら、高齢者の世紀にふさわしい次の活動を展開することを宣言します。

記

1. 「老人クラブ21世紀プラン」を実践、推進する
1. 魅力ある老人クラブづくりと会員増強を推進する
1. 地域高齢者の健康づくり・介護予防活動を推進する
1. 誰もが安心して暮らせる地域支え合い活動を推進する
1. 地域社会と連携した安全・安心の地域づくりを推進する

平成24年8月8日